

湘南学園だより

発行：湘南学園だより編集部



contents



今日から始まる新しい日々	理事長	河野重男	02
お味噌を作ろう！	年中組担任	松本里恵	03
小学校のICT機器活用	小学校教頭	林田英一郎	04
子どもたちが主体的に命を守る防災の取り組み	小学校総務主任	北村和美	05
「湘南の知性輝く気品高い学園生を目指して」のこの三年目から	中高校長	榎本勝己	06
2018年度入試の状況と2020年度大学入試改革に向けて	中高学習進学指導主任	里吉正	07
「クラウドファンディングを利用したPBL」について	中高企画主任	吉川謙太郎	08
夢は何度でも描き直して良い	PTA会長	近藤えり子	09
同窓会へ入会して皆さんの思い出を共有しませんか	同窓会	伊藤等	09
学校法人からのご報告			10

今日から始まる新しい日々



理事長 河野重男

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、幼稚園の3年間、小学校の6年間、中学校高等学校の6年間を、鶴沼の恵まれた環境の中で過ごし、それぞれ次のスタートラインへ立っています。

これからの皆さんの人生が、希望に満ちた素晴らしいものとなりますように願っております。

卒業生の保護者の皆様、ご卒業まことにおめでとうございます。在学中の学園へのご支援ご協力に、あらためまして感謝申し上げます。

今日は残りの人生の第一日目

これから卒業生の皆さんは、長い人では15年間通った学園を離れ、今までは比較にならないほど広く、多様性のある環境

に転じることとなります。

皆さんの心には、たくさんの思い出と少しの不安が渦巻いているかもしれません。

私自身も卒業の時を振り返ると、これからへの期待と不安でいっぱいだったような気がしますが、そんな時にとっても心に響いた言葉があります。

Today is the first day of the rest of your life.

「今日という日は残りの人生の第一日目である」

「人は常に成長している。これまでの事も大切だが、考えるべき事はこれからのために何をすべきなのか」と言う意味と解釈しています。

同様の意味で、議会政治の父とも呼ばれる尾崎行雄は、次の言葉を残しています。「人生の本舞台は常に将来にある」

これからの社会では、様々な困難に直面する事もあると思いますが、常に湘南学園生としての誇りを胸に、自身の新しい目標に挑戦し続けていって欲しいと思います。

AMOR OMNIA VINCIT

私が青春時代を過ごしたキャンパスのモニュメントには、次の言葉（ラテン語）が刻まれています。

AMOR OMNIA VINCIT
「愛はすべてに打ち勝つ」

これは、「幸福論」の著者として知られる哲学者カール・ヒルティの言葉で、日本語では「愛はすべてに打ち勝つ」と訳されています。

ここで言う「愛」とは「恋愛感情ではなく、人にしてもらいたいことは、人にもそのようにしてあげる、そういう愛」であり、要約するならば、様々な人々との相互理解とリスペクトであると思います。

皆さんも、これからの新しい環境の中で、常に「愛」と「感謝」の心を持って人と接することにより、素晴らしい出会いに恵まれるものと確信しています。

これからの湘南学園のために

湘南学園は、1933年の創立以来、伝統を堅持しつつ時流の変化に沿った教育を実践し、85年の歳月を歩んでまいりました。

学校法人湘南学園の基本規則である寄附行為にはきわめてユニークな定めがあります。

「第4条（運営の基本）」

この法人は、湘南学園各校の保護者の総意と関係教職員の総意との調和に基づいた運営を基本とする」

そのために、学校法人の役員である理事は保護者と教職員から選任され、監事は保護者から選任されます。

また、役員の任期は次の様に定められています。

「第9条（役員の任期）」
役員の任期は、西暦偶数年の4月1日より翌々年の3月31日までの2年とする」

2018年度は役員改選期にあたりますが、役員選任の母体となる評議員は既に決定しており、かなり大幅な役員の交代が見込まれます。

フレッシュな体制となりますので、来るべき100周年に向

けて素晴らしい運営がなされるものと期待しております。

最後になりましたが、教職員・PTA・同窓会・後援会・運営パートナーをはじめとする「チーム湘南学園」の皆様、この1年間、たいへんお疲れ様でした。

また、私の理事・理事長在職中にいただきました、ご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

4月から始まる新しい湘南学園に、引き続きご支援・ご尽力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

お味噌を作ろう！

年中組担任 松本里恵

2月、恒例の節分行事が行われました。福豆を買いに行ったり、節分や大豆に関する絵本を楽しんだ子ども達。豆まき当日の興奮も然るながら「大豆」についての関心も大きく膨らんでいきました。



本舗沼のお豆腐さんにお買い物



納豆やお豆腐、お味噌…様々な変化していく大豆。しかし、どついたら味も形状も異なる食べ物になるのか？ 年中児にとってはまだまだ想像し難い様子。そんな中、お味噌に関しては「うちのお母さん、お味噌作ったことあるよ」「うちのおばあちゃんも毎年作って届けてくれるの」と身近な生活の中で味噌づくりの様子を見たり、聞いたりの子がいました。実は2学期にみんなで豚汁を作り、食べた経験を持つ子ども達。お味噌が手作りできる事を知ると「お味噌を作って、また豚汁パ

「ティーがしたい！」と大きな意欲がわいていきました。

そして始まった味噌づくり。「どついたら大豆が味噌になるか」「保育者が答えを出すのではなく、各家庭で聞いたり、みんなで調べたりしながら進めていく過程は子ども達にとつて沢山の疑問・発見の連続でした。

まず福豆と違って生の大豆は丸く小さく固いこと。それが水につけておくと大きく膨らむ不思議。「大豆はお水を飲むと大きくなるんだね」「人間はお水飲んでも膨らまないのに」「でも赤ちゃんはミルク飲むと大きくなるから同じだね」など5才児らしさが光る感性。

また、大豆を煮るにあたっては「茹でる」「煮る」という言葉と行為が結びつかない子がまだ殆ど。「煮るって焼くことじゃない？」「ジュージューするの？」「お湯を入れてグツグツすることかな？」など知っていない



大豆、いい匂いだね～

るようで知らなかった言葉も実際に経験することで理解していきました。

さらなる発見は「麴」の存在。「カビなのに食べられるの?!」「そういうえはチーズもカビってママが言った」「食べるおなか痛くなっちゃう悪玉菌もいるってお姉ちゃんの本に書いてあったよ」「その本見てみた〜い！」「子ども達の関心は次々膨らみつつ、何日もかけ味噌づくりは進んでいきました。



大豆・麴・塩をよく混ぜて

「茹でた大豆ってジャガイモみたいにホクホクしてる」「甘くておいしい〜」「よく混ぜたら味噌っぽい匂いになってきた。」「塩が手に沁みて痛い！」



コロコロの味噌ボールづくり

「お味噌ボールすべすべしてて、いい気持ち！」

見て、触って、嗅いで、聞いて、味わって…みんなで5キロほどのお味噌を仕込むことができました。



出来たお味噌にラベル付け

そして、お味噌づくりが終わった今もまだまだ子ども達の興味は広がり続けています。お弁当に入っていたがんもどきやピーナッツ味噌に気付き「これも大豆の仲間ってお母さんが教えてくれたよ」と今まで何気なく食べていたものにも改めて注目する子。

お家から持ってきた2粒の大豆を手に「今は2粒しかないから、畑に植えていっぱい増やして、豆もやしと、枝豆と、またお味噌も作ってみんなで食べよう！」と夢を膨らませる子。

味噌のみならず、お豆腐が出来る過程も気になって、家からお豆腐屋さんさんの絵本を持ってくる子。



みんな幼稚園近くのお豆腐屋さんも見学に行きました！

ほんの小さなきっかけから大きく膨らんでいく子ども達の興味。その一つひとつの思いを保護者の方と手を取り合いながら大切に受け止め、寄り添っていくことで、食や生活への関心・言葉の習得・そして思い描いたことが実現していく喜びや満足感・さらには地域の方々と働く方への関心へとつなげていくことで、子ども達の生活がより豊かなものへとなっていくことを願っています。

みんなで作込んだ味噌。これから半年ほど寝かせ、年長組になった夏頃に食べられることを心待ちにしている子ども達。大豆はどんな味に変化しているのか、そして子ども達はどんな風に味わうのか、今からその時が楽しみです。

小学校のICT機器活用

小学校 林田英一郎



小学校では、今年度の予算で教員用のiPad Proを学年＋共用2台の計8台、児童用にiPad第5世代を48台購入しました。

二〇二二年の新校舎完成時に、既に各クラスの教室とメディアセンター、理科室、英語科室などの専科教室に固定式のプロジェクトを設置しています。また、各クラスの教室には、教員用と児童用のLAN回線を有線と無線の両方で整備しています。

今回のICT整備は、これらの既存の設備を利用して、学習の中でタブレット端末を活用する事を想定してのものです。

教員用のiPad Proは、第二に授業用の拡大提示機器として活用されます。

教員用の貸与ノートPCでも、プロジェクトと接続して拡大提示を行う事はできます。しかし、これは有線接続が前提です。また、提示する資料を拡大するのもスムーズではありませんでした。

一方、iPadは、Apple TVを介して無線でプロジェクトと接続することが出来ます。これによって、教員は教室内を移動して、児童に声がけをしながらプロジェクト



ターを操作する事も可能です。カメラ機能を利用すれば、児童のノートや作品を撮影してプロジェクトに映し出すことも可能です。これまでは書画カメラが設置している場所にノートや作品を持っている必要がありますが、それらも不要となります。

また、iPadのマルチタッチスクリーン機能を利用して、プロジェクトに投影した資料をピンチアウト（拡大）して児童に提示する事も簡単です。

アプリケーションソフトとしては、「ロイロノート」が授業の拡大提示用に活用できます。

教員用iPad Proにはキーボードと電子ペンも付いているので、教材作成や画面へのしつかりした書き込

みもできます。

「ロイロノート」の本来の機能は、子どもたちの学び合いをサポートすることにあります。「ロイロノート」は自分たちの考えをカードに書き出し、カードをつなげて構成していきながら自分たちの思考をついにまとめていくことができます。また、授業者を介して、子どもたちのカードを共有し学び合いの授業を進めていくことも可能です。こうした機能によって、授業の中で子どもたちからの発信が容易になり、その機会が増えていくことで主体的に学ぶ力がついていくことが期待されます。

子どもたちが使用するiPadは、持ち運びやすく、衝撃を吸収するカバーを選んでいます。

また、既存の児童用回線を利用して無線LANでインターネットに接続できるようになっています。これまではインターネットを利用して調べ学習をするためにはメディアセンターのデスクトップPCを利用する必要がありました。iPadを利用すれば教室でも無線環境でできるようになりました。

その他にも、iPadの標準アプリケーションを利用することによって、様々なことが出来ます。

下の画面は、英語の授業で動画を作成したものです。子どもたち



の英会話のシチュエーションを短い動画にしてみました。その他にも様々な利用方法を模索している最中です。

小学校では、次年度も引き続き様々な利用方法を検討しながら、まずは教員がiPadの利用に慣れていくことが肝要と考えています。その次の段階として授業での活用を目指していきます。

新しい学習指導要領では、情報活用能力の育成を図るためにICT環境整備の重要性が強調されると共に、小学校でもプログラミング教育の必修化が示されました。そうした中、今後もICT機器の整備をしていくと共に、プログラミング教育をどのように実施していくか検討を進めていきます。

プログラミング的思考を育むためにはICT機器が必須というわけではありません。プログラミング的思考は、課題解決の方法を具体化し、その手順を考えて操作することによって問題解決を行うものです。これは論理的思考力の育成につながるもので、従来の教科学習の中で既につけてきている力です。

小学校のプログラミング教育を構想するためには、これまでに実践してきた教科等の学習の中からプログラミング的思考に資する内容を洗い出して、それと共に適切にプログラミングの体験を配置していく必要があります。そして、そうした活動が子どもたちにとって、楽しく、しかも深い学びになることが何よりも大切だと考えています。



子どもたちが主体的に命を守る防災の取り組み

小学校防災担当 北村和美



二〇一一年三月一日以来、学園小学校では防災の考え方を大きく転換しました。

二〇一五年十一月、湘南学園小学校を会場として開催した関東地区私立小学校研修会の全体講演会の講師に、地域防災研究の第一人者である片田敏孝先生（群馬大学教授・当時／現在は東京大学大学院特任教授）をお招きしました。



その中で強調されていたことは、先生の著書のタイトルでもある「人が死なない防災」ということでした。

大きな津波被害に見舞われた岩手県釜石市で、多くの小中学生が自らの主体的な判断と行動で自分の命を守れたのは、釜石の学校を中心に取り組まれてきた防災教育の成果であって、奇跡などではないし、「想定外」という言葉も簡単に使うべきで

はないと、くり返し問題提起をされています。

「大きな災害が起きたら、大人の言うとおりに行動しなさい」と教えるのではなく、「想定にとらわれるな、最善を尽くせ、率先避難者たれ」という避難の三原則に基づく主体的な行動のできる子どもたちを、いかにして育てるかが問われていると再認識しました。

ここでは、近年の学園小学校での防災教育の取り組みを紹介します。

まず、毎学期のはじめには、



「シェイクアウト」（まず低く、頭を守り、動かない）の訓練をおこないます。回を重ねると、事前の予告がなくなるとも、地震の音や緊急地震速報のチャイムが聞こえただけで、子どもたちは素早く机の下に潜り、安全確保の姿勢をとれるようになっていきます。



次に、津波を想定して全校児童が三階の避難場所へ速やかに避難し、人員点呼をるところまでの訓練をおこないます。

六月には、保護者の皆さんにも協力をお願いして、非常時を想定した児童引き渡し訓練を実施します。東日本大震災時には、下校途中の一部の児童が止まった電車に取り残されまし



た。上級生がリーダーとして力を合わせて学校まで戻り、夜中まで保護者のお迎えを待っていた話など、折に触れて子どもたちに伝えていきます。

二学期には、幼小中高と足並みを揃えた全学津波避難訓練に加えて、火災を想定した小グラウンドへの避難訓練もおこなっています。避難の途中に、ケガをして動けなくなる児童や、行方不明になる児童がいることも想定して、人員点呼で揃わない児童をあえて出して、教職員が手分けして校舎内を探索します。

三学期になると、子どもたちにも予告無しで、昼休みや掃除中など、担任の先生が近くにならない状況でも、自分で判断して津波避難ができるかの訓練をおこないます。

このほかにも、学年によって、地域の消防署の協力を仰いで、煙に巻かれても慌てないように「煙小屋体験」を実施したり、震度七クラスの揺れがどれ

ほど激しいものか、身をもって学ぶ「起震車体験」などを実施したりしています。

このような取り組みとおして、いつ、どこで災害に遭遇しても、自分の命を守るために率先して避難できる子どもたちに育つようにと願っています。



「湘南の知性輝く気品高い学園生を目指して」のこの二年目から

中高校長 榎本勝己

この春、湘南学園中学校高等
学校そして学園小学校・幼稚園
を卒業・卒園される生徒、児童、
園児の皆さん、ご卒業・卒園おめで
とうございます。皆さんに心から
の祝福と励ましの言葉を送りま
す。

皆さんが進まれるそれぞれの
進路において、層々活躍されるこ
とを心から期待しています。卒業
生・卒園生の保護者の皆様にも、
お子さまのご卒業・ご卒園をお祝
い申し上げます。

着任2年となる今年度を振り
返り、その主な取組みの特徴につ
いてご報告します。

①「湘南学園ESD」教育の新 たな高みを目指した取り組み

昨夏より本格始動した「クラウ
ドファンディング」の展開は、湘南
学園ESD教育の可能性をより
広げるものとなりました。メデイ
アの好意的な報道も後押しいた
だき、学校での学びがややもする
と学校空間に閉じられがちな面
を、クラウドファンディングというツ
ールを使つての社会との往還によ
り、生徒の問題意識を具体化し

た、プランをより豊かに、またリアル
に厳しく評価いただき発信する
ことができました。成功事例から
学ぶことは無論ですが、むしろ
まういかなかつた事例の振り返り
と再構築を、二年目の取り組みに
結び付けていくこととなります。

10月文化の秋、ノーベル化学賞を
受賞された根岸英二博士の「対話
集会」は、根岸博士の学びと失敗
の軌跡から生徒の皆さんが多く
のヒントをえる刺激的で貴重な
機会となりました。

「ポランドリトアニアヒストリー
ツアー」の継続とそこでの学びは、
2020年東京オリンピックのリ
トアニアホームタウンが平塚市に
決定したこともあり、学園中高と
のコラボ企画の可能性をうかがわ
せるものになったといえます。

②「中高グローバル教育 2017」の新展開

教員のグローバルな視野の涵養
という意味では、今年度三回目と
なる「米国トップランキング大学
視察」に、里吉学習進学主任(数
学)と相崎教諭(理科)の中堅若
手教員に参加いただき、「新年初
顔合わせ」において全学にその学

びを共有化できたことは大きな
意味を持ちました。また引き続
き英語教員研修の二環として教
員向け「エンパワーメントプログ
ラム」に二名の参加を得たこと(以
上「教育振興基金」支援プログラ
ム)も英語科教員支援として有
意義でした。中学生対象の「イン
グリッシュ・キャンプ」も規模を拡
大して引き続き取り組まれ、参
加者に高い満足度を与えること
ができました。さらにグローバルセ
ミナーに新たに「エンパワーメント
アメリカセミナー」を初実施し、リ
ベラルアーツカレッジでの質の高い
研修になったといえます。SGHア
ソシエイト校プログラムの二環とし
て、「ヤングアメリカンズ」を全学
実行委員会方式継続実施するこ
とも特色ある取り組みとなりま
す。

育の接続を視野に、小中連携・接
続「英語」教育会議を開催者の
出席のもとに実施しました。「英
語」教育会議の継続と共に、中長
期的湘南学園教育構想づくりに
結びつく幼稚園、小学校、中学校、
高等学校の連携・接続・一貫性を十
全に生かした湘南学園の未来を
共に大きく示していくことの大事
さを強く感じています。

今回の中学入試に際しては、ミ
スを防ぐための出来る限りの
対応を引き続きとると共に、学
園中高の「メッセージとしての入
試」を目指しました。改めて学園
中高への期待をもつていただくよ
う法人をはじめ「チーム湘南学
園」関係各位のご協力もあり、湘
南学園中高の歴史を繋いでいくに
相応しい新入生を迎え入れるこ
とが見通せることとなりました。
御礼申し上げます。

③さらなる連携・接続・一貫性 をもつた学園教育を

二年目を迎える湘南学園連携・
接続教育会議を充実させてきま
した。2020年度から初等教育
課程高学年において導入予定の
教科「英語」のあり方と前期中等
教育における求められる英語教

からくる強い衝撃とともに共感
を呼びました。
昨12月には、かつて防災委員会
研修で訪問した宮城県多賀城高
校関係者に来校をいただき、防
災を中心とした交流をもちまし
た。そこでの学びから、改めて防
災減災教育のあり方を追求する
機会になったといえます。地域の
皆様の多くの命を預かる学園で
あると共に、生徒にとって「安心・
安全の場」であることが求められ
ます。防災備品の点検・充実を行
い、改めて「いつくるかわからない、
その日のために何度でも」を合言
葉に、地域の皆様と共に具体性あ
る対応を求めていきます。

④2018年度中学校入試と 迎える新入生への期待

今回の中学入試に際しては、ミ
スを防ぐための出来る限りの
対応を引き続きとると共に、学
園中高の「メッセージとしての入
試」を目指しました。改めて学園
中高への期待をもつていただくよ
う法人をはじめ「チーム湘南学
園」関係各位のご協力もあり、湘
南学園中高の歴史を繋いでいくに
相応しい新入生を迎え入れるこ
とが見通せることとなりました。
御礼申し上げます。

⑤地域の現実を踏まえた「安 心・安全」の防災拠点

全学避難訓練の継続実施2年
目の取り組みがなされ、学園を
会場に鶴沼地区6自治会による
防災・防犯の集いで、地域をケー
ススタディにした報告がなされるな
ど、地域の現実を直視したところ

⑥PTA、同窓会、後援会、地 域の皆様のご支援をいただき

2018年度に向けて中高が
推進する様々な施策とその取り
組みを成功させていくには、何よ
りも学園の関係者による連携協
力・相互支援が不可欠になりま
す。目指す学園中高の学園づく
り、教育づくりのベースには「チ
ーム湘南学園」が最大の理解者と
してまた支援者として、引き続き
大いなる役割を果たしていただ
けますようお願いいたします。

2018年度入試の状況と2020年度大学入試改革に向けて

中高等学校進学指導主任 里吉 正

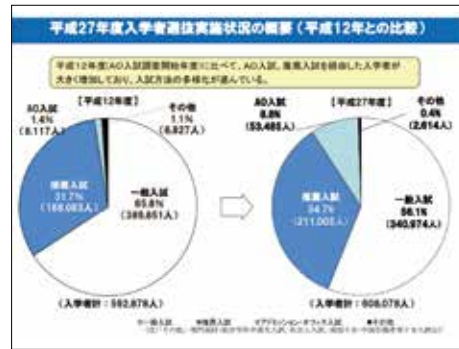
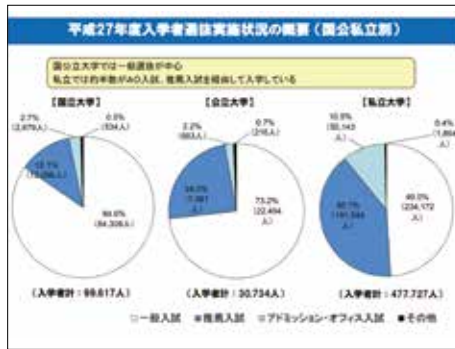
・本校の大学受験の様子

8月から12月にかけて、推薦入試、AO入試、神奈川大学給費生試験などの早期入試を受験し、合格した生徒は数名います。その中で進学を決定している生徒は学年の約20%であり、約80%の生徒が一般入試を受験します。高校3年生は12月から自由登校期間に入りましたが、学校で実施した冬期講習に参加したり、自習室や教室で学習している様子が多々見受けられました。我々ができることは、そういった生徒達に寄り添い、励ますことだけです。最後まであきらめず、自分の希望を叶えて欲しいと願っております。

・推薦、AO入試の広がり

文部科学省の資料によると、平成12年度入試から平成27年度入試にかけて、推薦入試とAO入試での入学者の割合の合計が33.1%から43.5%に増えていることが分かります。

さらに国立、公立、私立大学に分けたとき、私立大学に関しては推薦入試とAO入試の入学者の合計が50.6%と、半数を超えています。



本校ではこの入試形態で入学した生徒が約20%です。少ないように感じると思われますが、実はAO入試を積極的に導入している私立大学のほとんどが、生

徒募集に苦慮している大学であり、本校の生徒が第一志望とする大学ではその形態を取っていても、募集定員が少なくなかなか受からないのが現状です。しかし、2020年度の大学入試改革において国公立のAO入試、推薦入試の入学者割合30%を目指すことが文科省から示されています。

・2020年の大学入試で求められるもの

文科省が大学入試改革で掲げる、高校生までに求める学力の3要素
知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性をもって協働して学ぶ姿勢

これを充足できるような教育を展開していく必要があります。そのために、中高では様々な事に挑戦しています。

・知識・技能を養うために

従来の講義形式による受動的な授業は知識技能を蓄えるために必要なものです。しかし、その知識技能を使うためにグループワークなどの、協働的な学習活動が必要になります。徐々にですが、座席を向かい合わせに

した授業をする時間が増えてきています。

また、ICTを活用することで今までできなかった教育を展開することが可能となります。具体的には、情報伝達の高速化や情報の共有などがあげることができ、そのために、校内でICTを利用した教員研修なども実施しています。

・思考力・判断力・表現力を養うために

中高の総合学習では、身近なことから日本、世界で起こっている様々な出来事を学び、そこで起こっている問題を調べ、それを解決させるための方法などを話し合います。この活動の中で、思考力、判断力が必要となり、自分たちの考えを全員と共有するためにプレゼンテーションするための表現力も必要です。



今年度の中3では、グループワークから自分の考えを的確に表現する力を養うために「論文ワーク」という教材を使用しました。



・主体性をもって協働的に学ぶ姿勢を養うために

本校の生徒会活動は、まさに主体性、協働性を身につけることができるものだと思います。高校2年から中学1年が一緒になつて参加する体育祭、クラス一丸となって企画運営する学園祭、1年間の締めくくる合唱コンクール。これらは、たくさんのリーダーが主体的に活動し、リーダーを協力的に支える活動です。

・新しい大学入試への対応

文科省の掲げる学力の3要素を取り入れた大学入試が2020年には実施されます。知識技能は従来通りの試験、思考力・判断力・表現力については、記述試験の他に、面接や小論文などを取り入れた入試、主体性や協働性は学校の調査書や生徒自身が作成する学習記録

(ポトフォリオ)などで評価することが予想されます。

協働的学習活動、総合学習、生徒会活動をより充実させ、ICTを利用して活動記録をすることで、入試のときに今の自分がどのような活動から、何を学んでいるのかを語ることができ、生徒を育てることで、新しい大入試、そしてグローバル社会に対応できる生徒を育てたいです。



◎「クラウドファンディングを利用したPBL」について

中高企画主任 吉川謙太郎

クラウドファンディングサイトの立ち上げ

中高では、昨年7月～11月にかけてクラウドファンディングサイトを立ち上げました。すでに寄付の受付は終了していますが、サイト自体は、湘南学園中の高のHPにある「湘南学園ESD クラウドファンディング」バナーからもご覧いただくことができます。バナーをクリックしていただくと、今回の取組の主旨等が記されていますので、是非、ご覧いただければと思います。さらに、「湘南学園」スカラシップページサイトへ」をクリックしていただくと、サイトに入ることができます。ここでは、今回立ち上げられた全てのプロジェクトをご覧いただくことができます。

学校教育の中にクラウドファンディングを

学校教育の中にクラウドファンディングを本格的に導入するのは、おそらく全国的にみても初めてに近いことであったと思われまます。

本年1月23日には、日本経済新聞夕刊に、本校を含めた何校かの事例を挙げた記事が掲載されました。そこには、以下のよう文章があります。

「クラウドファンディング（CF）によって授業や部活動などの資金を集める動きが広がっている。ネット上で活動内容や意義を訴え、共感する人からの寄付を集める手法で、起業家や市民団体などの資金調達手段としてここ数年、急速に普及してきた。教育現場では金銭面だけでなく、寄付の呼び掛けを通じて子供たちが学外と関わる効果が注目されている。」

特に「金銭面だけでなく」というところに注目して下さい。もちろん、「お金集め」は重要な要素ですが、学校としては、今回のこの取組について、「クラウドファンディングを利用したPBL（Project Based Learning：課題解決型学習）」として位置づけています。つまり、「お金集め」は、PBLを実施する際の一つの手段であるということです。「学

校が生徒に『お金集め』をさせている。けしからん」というような表面的な捉え方はしないでいただければ幸いです。とはいえ、実際には「お金集め」に意識が集まってしまったということとはあり、それは今回の最大の反省点でもあります。

〈成果と課題〉

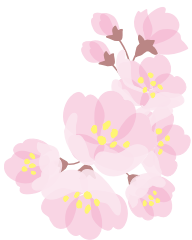
まずは、具体的な数字でお示しできるものです。寄付をして下さった方は延べで349名、サイトを通しての寄付総額は1,711,000円となりました。ご支援いただきました皆様に篤く御礼申し上げます。

そして、社会との関わりを実感し得た生徒がこれまで以上に始まったことが大きな成果といえるでしょう。特に活動をしていく中で様々な方々からいただいたアドバイスは、活動内容やプロジェクト自体を改善していくという学びに直接つながるものとなりました。「次なるチャレンジの種」が蒔かれたものとみています。

一方、先にも記した「『お金集め』に意識がいきすぎている」ということは、「何のために」という原点を常に念頭に置きながら活動していくべきであったという課題を導き出しました。それは、さらには、「プロジェクトの内容をいかに説得力のあるものにするか」ということにもつながるものでしょう。また、「外部への発信が弱かったのではないか」といった課題もあると考えています。

当然、他にも多くの「成果と課題」があります。それらを含め、より良い形にして、来年度も「クラウドファンディングを利用したPBL」自体は継続する予定です。

現段階で、本校におけるクラウドファンディングとは「生徒の自主活動や主体的学びの可能性を広げるためのツール」であると考えています。



〈夢は何度でも描き直して良い〉

PTA会長 近藤えり子



卒業生の皆さん。
ご卒業おめでとうございます。
今、皆さんは、次のステージに
向かって希望に満ち溢れている
ことでしょう。

湘南学園は、昭和8年の創立
以来、子どもたちの個性を尊重
した自主性を育む自由な教育に
より気品高く明朗な将来、社会
に役立つ人間を大きく育てると
言う建学の精神を守ってまいり
ました。自分で考える力を持
ち、その力を引き出すための知
恵を幼稚園から高等学校まで学
びました。

どの様に生きるか、どの様に
振る舞い、どんな気持で毎日を
過ごせば良いか、本当に必要な
知恵をすべて、湘南学園で学ん
だのです。そして、皆さんに
は、どんなことにも負けずに対
応できる力が備わったのです。
素晴らしい仲間もできたこと
でしょう。友だちは、一生の宝
物ですね。仲間の何気ない言葉
に救われる瞬間があったのでは
ないでしょうか。気づかないう
ちに自分も仲間の支えになっ
ていたこともあるでしょう。そう
思うと、皆さんは、思いやりや
優しさも持ち備えていると言っ

ことなのです。きっと、無意識
に、優しさやあたたかい気持を
友だちに手渡しているのだと思
います。自分の幸せを友だちに
も分け与えることが出来る譲
り心で、自然に周りも自分も豊
かになっているのです。

高校球児は、高校3年生の夏
で幕を閉じました。学園生に限
らず、球児たちは、高校を最後
に野球をやめる人が少なくあり
ません。そこでは、無数の地区
予選が目まぐるしくついでついで
汗を流し、涙を流し、全力で挑
む球児たち。そんな彼らは、と
ても輝いて見えました。トーナ
メントは、負ければ終わりで
す。頂点に勝ち残るのは、一校
だけです。泣き崩れている彼ら
を見て、何とも言えない気落ち
になりました。幼い頃から、白
球を追いかけた日々の思い出
が、走馬燈の様に、駆け巡り、
昨日のこのように思えます。

涙を流していた彼らが、最後に
は、とても、清々しい表情を浮
かべ、悔いなく輝いていまし
た。私は、感動と沢山の思い出
をありがとう...と、言う気持ち
いっぱいになりました。
夢は、砕け散るからこそ、新

しい道が見えてくると思いま
す。大きな夢が、挫折したから
こそ、新たな道へと一歩を踏み
出す勇気が沸きあがってくるの
です。夢は、何度でも描き直し
て良いのです。大事なことは、
夢の大きさよりも、それがあな
たととって、大切な夢であるか
とすることです。

これからの人生で大切な
は、過去でも未来でもありませ
ん。今こそが、本当に大切な
です。今は、過去の積み重ねで
あり、今の積み重ねが未来にな
るのです。人生において、自分
の代わりはいない。皆さんの人
生を代わりに生きてくれる人
は、誰もいません。自分が、ど
う生きるべきかを決めるのは、
自分しかいないのです。

湘南学園で学んだ皆さんは、
次のステージで活躍出来る経験
や体験を数多くしています。
どうか、人生の主人公は、自
分自身だと言うことに自信を持
って羽ばたいて頂きたいと願っ
ております。

皆さんの人生が幸せに満ち溢
れたものであることを心よりお
祈りいたします。

同窓会へ入会して皆さんの

思い出を共有しませんか

同窓会 伊藤 等

幼稚園で、小学校で、中学校
で、高等学校で学び遊んだ皆さ
んの友だち、先生方との思い出
を末永く共有してみませんか。
同窓会は学園を卒業・卒業され
た皆さんが友だちと学び遊んだ
時間を超え学年を超えて多くの
先輩・後輩の皆さんとの楽しい
集まりの場です。

同窓会は学園祭展示、松ぼ
っくりフォーラム（卒園・卒
業生の講演会）、新成人を祝う
会、「SEASIDE」（広報誌）
発行などの活動を会費収入とポ
ランティア活動により成立して
いる組織です。

同窓会への入会は幼稚園だけ
でも、小学校だけでも、中学校
だけでも、高等学校だけでも学
園に学び遊んだ卒園・卒業生の
方ならどなたでも入会できま
す。「SEASIDE」を読んで頂
くだけでも、学園祭に遊びに来
て頂くだけでも結構です。ま
た、もっと積極的に同窓会活動
に参加頂けるようでしたら、同
窓会活動の中心的役割を担う常
任幹事、各学年の情報交換には

学年幹事、諸活動のお手伝いに
参加頂けるスタッフの方々など
様々な活動形態があります。是
非、卒園・卒業生の皆さんのお
得意な分野などで同窓会活動へ
知恵と技術をお貸し戴けないで
しょうか。

同窓会は懐かしい友だち、先
生方との再会の場であるばかり
ではなく、先輩・後輩、あまり
親しくなかった同期との新しい
交流が始まる場でもあります。
どうぞ、同窓会への扉を開け
て下さい。



* 写真は、学園祭(同窓会室)に集まった野球部OBの方々と同窓会会長、副会長です。

《学校法人から》

【理事会報告】

これまで、次の理事会を開催いたしましたのでご報告いたします。

第5回臨時理事会	9月8日
第6回定例理事会	9月16日
第6回臨時理事会	10月13日
第2回常任理事会	10月28日
第7回定例理事会	10月28日
第7回臨時理事会	11月10日
第8回臨時理事会	11月16日
第8回定例理事会	11月25日
第9回臨時理事会	12月9日
第9回定例理事会	12月22日
第10回臨時理事会	1月6日
第11回臨時理事会	1月20日
第11回定例理事会	1月27日

〔主要な議題・報告等〕

- ・ 学園長選任規程・学園長候補者推薦規程の改正について
- ・ 平成29年度地域別最低賃金改定に伴う賃金の支払いについて
- ・ 2017年度中高夏期講習・合宿講習手当の支払いについて
- ・ 固定資産（小学校メディアセ

- ・ 2016年度末における減価償却済資産の除却にかかる金額追加について
- ・ 中高でのICT教育実現に向けての計画の推進について
- ・ 次期学園長選任にかかる公告について
- ・ 複合機の入替えについて
- ・ カフェテリア業務委託に関する覚書に基づく支払資金の支払について
- ・ 特定非営利活動法人じぶん未来クラブへの仮払いについて
- ・ 平成29年度神奈川県私立中学校・高等学校振興大会について
- ・ 教職員会との交渉報告
- ・ タブレット端末の導入に向けて
- ・ 理事・評議員選任規程の改正について
- ・ 監事任期の運用について
- ・ 2018（平成30）年度予算編成方針について
- ・ 中学校地内の給水ポンプユニット装置の入れ替え工事について
- ・ 2017年度冬期賞与の暫定支給について
- ・ iPadの見積について
- ・ 教務システムのパッケージソフト導入について
- ・ 2018年中学入試問題印刷

費の支出について

- ・ iPad導入に伴うアンテナ設置と工事日程について
- ・ 2018（平成30）年度予算の取り纏め状況について
- ・ 2018年度幼稚園スクールバス運行について
- ・ 教務システムのパッケージソフト導入に伴うサーバー費用について
- ・ グローバル・アドバイザーの採用について
- ・ 育児・介護休業等に関する規則の改正について
- ・ 次期学園長の選任について
- ・ 小学校ICT機器の納品完了に伴う支払について
- ・ 固定資産（幼稚園温水シャワー給湯器）の除却について

【評議員会報告】

これまでに開催された評議員会についてご報告いたします。

第3回評議員会	9月16日
第4回評議員会	10月28日
第5回評議員会	1月6日
第6回評議員会	1月27日

〔主要な諮問事項等〕

- ・ 固定資産（減価償却済資産の金額追加、小学校メディアセンター図書）の除却
- ・ 学園長選任規程、学園長候補者推薦規程の改正について
- ・ 理事・評議員選任規程の改正について
- ・ 監事任期の運用について
- ・ 中高のICT教育実現に向けた計画の推進状況について
- ・ 学園長選の実施要領について
- ・ 次期学園長の選任にかかる経過及び今後の対応について
- ・ 湘南学園後援会入会システム導入について
- ・ 固定資産（幼稚園温水シャワー給湯器）の除却について
- ・ 次期学園長選任の報告について

【事務局からのご連絡】

お引越しの事由により、ご登録頂いている住所が変更された場合は、誠に恐れ入りますが、住所変更のお手続きをお願い申し上げます。なお住所変更に係る所定の様式は、事務局に準備させて頂いておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

〔登下校・登降園時の自家用車送迎禁止について〕

湘南学園では、園児・児童・生徒の登下校・登降園にあたっては、自家用車での送迎は原則禁止とさせて頂いております。園児・児童・生徒の安全確保はもとより、近隣の住民の方等への安全配慮もご考慮いただき、改めてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、園児・児童・生徒の病気や怪我等の特別な事情で止むを得ない場合は、必ず事前に学校（園）にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

